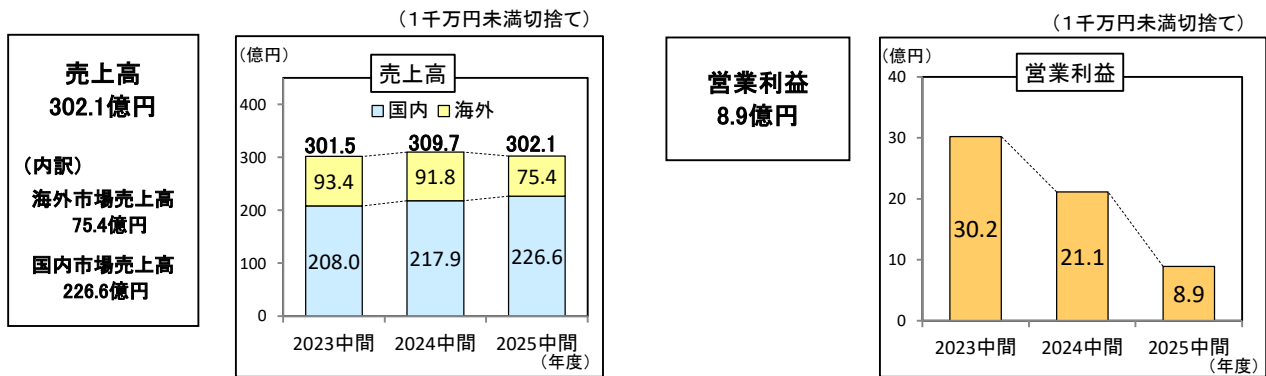


アイホン株式会社 2026年3月期中間決算(連結)のポイント

売上高 国内市場においては戸建市場やケア市場を中心に売上が増加したものの、海外市場においては北米売上が大幅に減少し、連結の売上高は減少いたしました。

利益 減収による減益に加え、相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率が減少したことによるセールスマックスの悪化や開発費や人的投資等の経費の増加により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益はすべて大幅に減少いたしました。



〔売上〕

国内市場全体で8.6億円の増加(前年同期比 4.0%増加)

◆住宅市場

主力商品の価格改定に伴う駆け込み需要も追い風となり、戸建住宅市場は大幅に増加したものの、一部商品の供給遅延により集合住宅市場のリニューアル売上が減少。

住宅市場全体として3.7億円の増加。(前年同期比 2.2%増)

戸建住宅市場

- 主力商品の価格改定に伴う駆け込み需要。
- 他社採用先への積極的な受注活動の奏功。
- 防犯意識の高まりを背景とした売上の増加。

集合住宅市場

- Pabbit提案により、賃貸マンション向け商品『PATMO α』を中心に新築売上が好調に推移。
- ▲一部商品に供給遅延が発生。
- ▲前年の価格改定に伴う駆け込み需要による一時的売上増加の反動減。

◆ケア市場

「見守り支援」ニーズに対応する課題解決型提案が奏功し、病院や高齢者住宅向けのリニューアル売上が増加したものの、新築着工件数の減少により新築売上が減少。

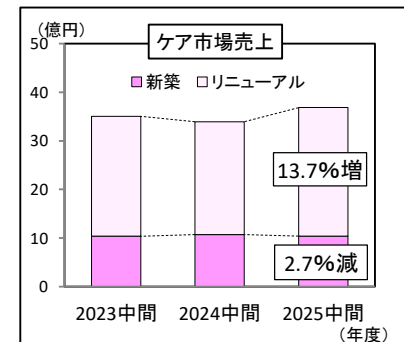
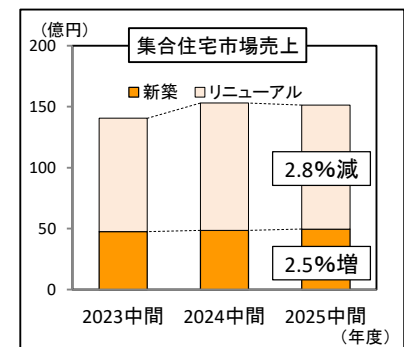
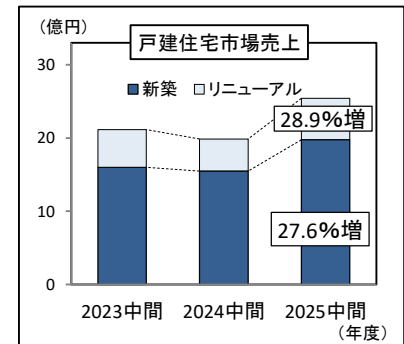
ケア市場全体として2.8億円の増加。(前年同期比 8.5%増)

ケア新築市場

- 医療・介護従事者不足の解消に向けた「見守り支援」ニーズ。
- ▲新築着工件数の減少。

ケアリニューアル市場

- 病院、施設等で「見守り支援」ニーズが高水準を維持。
- 補助金活用事例は継続。



国内市場

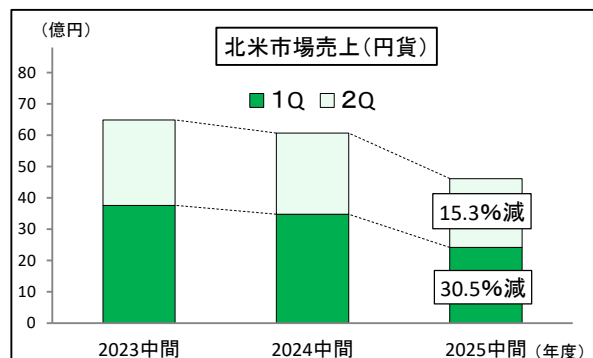
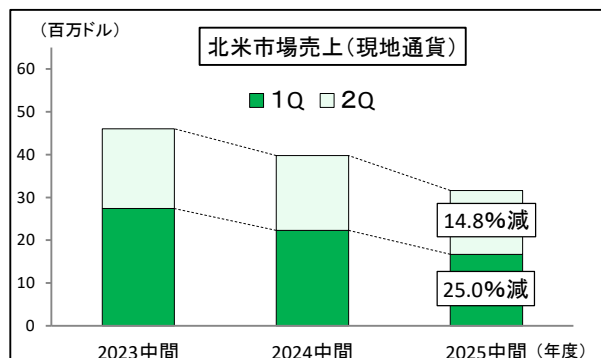
戸建住宅市場、ケアリニューアル市場を中心に売上が大幅に増加したこと等により、国内市場全体で前年同期比 4.0%の増加。

海外市場全体で16.3億円の減少(前年同期比 17.8%減)

◆北米市場 現地通貨ベースで減少。(前年同期比 20.5%減)
円貨ベースでは14.5億円の減少。(前年同期比 24.0%減)

▲関税を中心に米国経済が不透明な中での、販売代理店の在庫抑制。

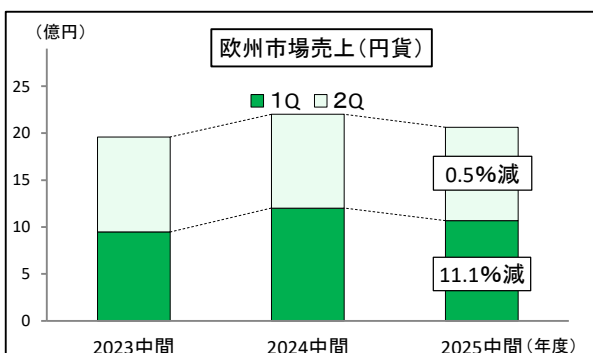
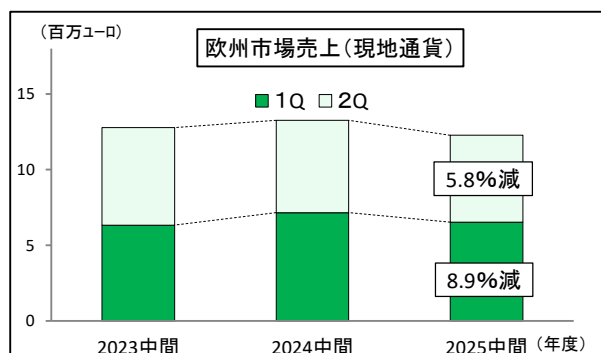
▲前年同期のバックオーダー解消による売上増加からの反動減。



◆欧州市場 現地通貨ベースで減少。(前年同期比 7.5%減)
円貨ベースでは1.3億円の減少。(前年同期比 6.3%減)

▲欧州経済の停滞。

▲欧州や中国企業との価格競争激化。



海外市場

主力の北米市場において、前期のバックオーダー解消による一時的な売上増加に対する反動減とともに、関税を中心に米国経済が不透明な中、販売代理店の在庫抑制により当社製品の購入が控えられ、現地通貨ベースで売上が大幅に減少。円貨ベースでも海外市場全体の売上高は前年同期比では為替が円高となったことも重なり17.8%の大幅減少。

〔利益〕

営業利益 12.2億円の減少(前年同期比 57.9%減)

▲相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率減少によるセールスマックスの悪化。

▲開発費や人的投資等の経費が増加。

経常利益11.0億円の減少(前年同期比 53.5%減)

親会社株主に帰属する中間純利益8.3億円の減少(前年同期比 49.5%減)

◎政策保有株式の売却益6.8億円。

▲投資有価証券の減損による評価損4.5億円。

〔通期見通し〕

期初計画を据え置き

◎相対的に利益率の高い国内リニューアル売上の更なる獲得。

◎販売価格の見直しの効果が下半期中盤から本格化してくると予想。

〔配当〕

期初計画とおり中間配当50円(期末配当80円と合わせて年間配当130円)

問い合わせ先
アイホン株式会社 経営企画部
052-228-8181